

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスかしのき教室		
○保護者評価実施期間	2026年3月10日 ～ 2026年3月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	2026年3月9日 ～ 2026年3月14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに寄り添った個別性の高い支援体制	子どもの特性や状況を丁寧に理解し、個別支援計画が適切に作成している。 モニタリングや聞き取りを通じてニーズを把握し、職員間で共有しながら支援を行っている。	地域支援センターや協議会との関係構築し、適切なアドバイスをもらう。
2	職員間の連携力とチーム支援の質の高さ	毎日の打ち合わせや振り返りを通じ、支援内容や課題を共有する体制が整っている。 職員が意見を出しやすい風土があり、支援改善につながっている。	成功事例や課題事例を共有・検討し、支援の引き出しを増やすことで、チーム全体のさらなる専門性向上を目指す。
3	保護者との信頼関係と情報共有体制の充実	オンラインや連絡帳、面談などを通じて、日常的な情報共有ができています。 定期面談や相談対応を継続的に丁寧にやっている。	家族支援プログラムの存在が十分に認知されていない可能性があるため、わかりやすく説明を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や外部機関との連携機会が十分とはいえない点	日常支援を優先する中で、地域機関との関係づくりや協議会等への参加の機会が限られていた。	地域の児童館や放課後児童クラブ、関係機関との連絡体制を整え、段階的に交流や情報交換の機会を増やしていくことが必要。
2	家族支援や保護者交流の機会の周知・参加促進の課題	家族支援や保護者交流の機会は設けているものの、実施目的や内容が十分に伝わっていない場合があり、保護者の参加意欲につながりにくい状況があったと考えられる。また、開催日時や形式が一部の家庭にとって参加しにくい場合もあった可能性がある。	家族支援の目的や内容をわかりやすく説明し、事前案内や振り返りの共有を充実させていくことが必要。また参加しやすい形式の工夫を行い、保護者同士の交流機会の充実を図っていく必要がある。
3	防災・安全対策の周知および訓練機会の充実の必要性	防災訓練や安全対策は実施しているものの、その実施内容や目的について保護者への十分な周知が行き届いていなかったことが要因と考えられる。	避難訓練や安全対策の実施状況について、保護者への報告や周知を定期的に行うことが必要と考えられる。また、施設の環境特性を踏まえた具体的な訓練内容の見直しや、複数回の実施による安全意識の向上を図っていく必要がある。